

きじし 益田の木地師たち

第58回ふるさと講座

～南飛驒の山々に生きた人びと～

全国の七合目以上の山々の木を自由に伐採し、使える人たちがいたという伝承があります。それは、木地師（屋）と呼ばれる人々で、山々を渡り歩き、山中の木を伐り、轆轤（ろくろ）を使って、お椀やお盆の形に仕上げ、町の塗師に渡すことを生業とする人々でした。

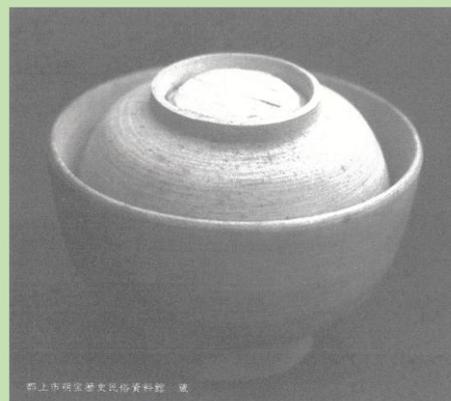
江戸期から明治末にかけ、益田で暮らした木地師たちが残した足跡を辿りながら、山々で木地挽きに生きた人々の姿に迫ってみたいと思います。山に生まれ、山に生き、そして、山で生涯を終えた人々たち。日本の近代化と共に山を去った人々です。

木地の椀や盆が暮らしから消え、木地師（屋）という言葉すら忘れ去られようとしている今、これまで決して歴史の表に出ることなどなかった「山に生きた人々」の歴史として、その姿を残しておかねば…と感じています。

また、この木地師たちは、『何処から来たのか、何者か、何処に行ったのか』についても迫りながら、『明治の近代化とは何であったか』についても触れてみたいと思います。2025（令和7）年は、昭和100年にあたります。益田の木地師たちが山々を去り、里での木地挽き生産が途絶えたのが、丁度100年程前になります。これまでに飛驒では吉城地域を中心に史・資料の収集や様々な研究がされていますが、身近な史・誌や新たに収集できた古文書類や諸史料等によって、「益田の木地師たち」を探っていきます。



明治初年の『後斐太風土記』より抜粋



3/16 (日)

13:00 開場 13:30 開講

入場無料・先着60名限定

予約制：電話予約をお願いします

下呂交流会館 25-5000（水曜休館）

講師：東上田誌編集委員会事務局長
遠藤卓氏

会場：下呂交流会館マルチスタジオ

*会場内ではマスクの着用を推奨いたします

■ 講師のプロフィール 遠藤^{たかし}卓氏 下呂市東上田在住

「考える地域史」「グローバルな地域史」を目標に、現在、そして将来に繋がる地域の近現代の歴史の発掘、調査、研究などを行っている。

・下呂市文化財審議員 ・下呂市文化財保護巡視員 ・下呂フォト倶楽部

主催：一般財団法人下呂ふるさと文化財団